

## 【前回の提言】

- ① デザイン思考に基づく社会的オープンイノベーション
- ② 人的ネットワークの形成でベンチャー支援
- ③ 国際的ネットワークの形成で海外展開支援
- ④ 地域連携組織で資金支援
- ⑤ リーンスタートアップと支援環境の整備
- ⑥ 大学連携と「デザイン思考」による人材育成

## 【前回の提言を踏まえた現状の評価】

世界のベンチャーエコシステムは、競争しつつ交流することによりネットワーク化している。関西のベンチャーエコシステムは動き出しつつあり、ベンチャー企業も少なからず存在するが、目立たない存在にとどまっている。

ベンチャー企業にとって活動しやすい地域との評価が確立されていない。

## ● 進捗・変化に向けた動きが見えつつあるもの

- ▶ 活発化するピッチイベントやベンチャー企業のネットワーク活動→①、②、③に対応
- ▶ ベンチャー企業に対するメンタリング→②に対応
- ▶ 大学の動き→④、⑥に対応
- ▶ 万博誘致の具体化→①に対応

## ● 大きな進捗がみられないもの・課題が残るもの

- ▶ ベンチャー企業や支援に関する網羅的情報発信・ワンストップサービスがない。
- ▶ 域外からの投資資金を呼び寄せる取り組みが不足。また、リスクマネー供給を本格的に増やす制度面での対応を進める必要がある。例えば公的年金基金はベンチャー投資に本格参入してきていない。
- ▶ 関西企業のオープンイノベーションへの取り組みと自前主義の脱却は、目立った流れにはなっていない。ベンチャー企業の市場開拓や資金調達環境などから、東京に拠点を移すケースが少なくない。
- ▶ ベンチャー企業に必要な経営人材の供給、それをサポートする体制が不足。
- ▶ アクセラレーターの関西進出については、動きはあるものの、設立・進出を更に加速させるとともに、その活動を地域で点から面に広げていくことが必要。

## 【提言】アクションプラン

世界のベンチャーエコシステムに伍し、関西を魅力ある地域として国内外から人材、資金を惹きつけて行くためには、以下の取り組みにより活性化したベンチャーエコシステムとしてのブランドイメージを確立することが必要。ワンストップサービスの充実とオープンイノベーションなど、ベンチャーフレンドリーな地域となるべく関係者が一丸となって取り組む。

1. 情報発信とワンストップサービス

関西にどのようなベンチャー企業やそのネットワークがあるか、どのような支援・サービスを受けられ、ビジネスチャンスが得られるかについて情報を集約。ポータルサイトによる情報発信、ワンストップサービスを実施する。

2. 国内外での積極的なプロモーション

世界のベンチャーエコシステム先進地に対する情報発信・連携を強化し、世界のベンチャーに関するネットワークに入るべく、積極的なプロモーション活動を行う。アクセラレーター、ベンチャーキャピタルなども誘致する。

3. オープンイノベーションの普及

経営トップのコミットメントを促し、オープンイノベーションや産学連携の方針を対外的に明らかにする企業を増やすことにより、ダイナミックでスピーディーなオープンイノベーション先進地を目指し機運醸成を図る。大学は社会実装の観点から、学と産を繋ぐコンサルタントなどによるシーズ探しや産学連携への取り組みを強化する。

4. 情報集約と発信・PDCAの仕組み

関西のベンチャーエコシステムでは官民の多くの主体が活動しており、それら各主体の情報を共有し、ネットワーク化することが情報発信、さらにはワンストップサービスの確立の面から不可欠。また、PDCAにより持続的発展を図ることが必要。そのためにベンチャー支援に関係する官民の関係者からなる「関西ベンチャー支援ボード(仮称)」を発足させる。

## 【メッセージ】

イノベーションが加速する中で世界のベンチャーエコシステムは競争をしており、関西のベンチャーエコシステムも先進エコシステムの一つとして世界に伍すことを目指していかなければならない。

今は「調査」の時期ではなく、具体的な「行動」を起こす時期。